

「お正月のひとつき」

第一話 「年賀状」

正月の楽しみのひとつに「年賀状」がある。
年賀状には様々なスタイルがあり、どれもこれも本当に楽しい。

自分のスタイルを確立している年賀状があり、これもまた最高に楽しい。昨年の身近な出来事を1500字びっちり書いてあるのもあれば、毎年のを漢詩にしたためているものもある。

どれもこれもユーモアたっぷりです元旦早々大いに笑わせてくれる。

年賀状印刷そのままのものでも、図柄を選んだ経緯を推察したり、家族が増えたらしいこともわかる。音信不通の人からの年賀状では年に一度の「お互い知り合い」の確認をし、たいへん嬉しい気持ちにさせてくれる。

宛名文字の筆形からその人であることが確認でき、自筆のものは暖かみがあり、ほのぼの感を増長させてくれるが、最近は宛名にもワープロを使ったりしたものが増えてきている。しかし、それはそれで楽しいものだ。

機械は苦手と言ってた人からのものだと、
「へえー、あの人ワープロをねー。すごいうまいじゃないか。」
とか何やともあれ楽しいのだ。

図柄や印刷文字の空きスペースのワンフレーズ（ひとこと）もいい。
「今年こそは会いましょう」と書いてあるものが多いが、毎年同じことを書いている人に限って連絡くれたためしがないのもご愛嬌である。

子供の頃はという訳か次のフレーズが書かれているケースが多かった。

「おもちをたべすぎないように」

「明けましておめでとう」や「〇〇〇〇年」や「ピカソが書いた様な干支の絵」で埋め尽くされた後の残りのスペースにこじんまりと書かれる場合が多かった。
子供の頃、これは、「今年もよろしく」と書かれる場合とほぼ等しい、かなり高い確率で書かれたものだった。

これはどういう意味だったのだろう。多分だれかが最初に使ったのを「おっ、これはいいワンポイントフレーズだ」と感じた人がまた書き、次々と広まったに違いない。
この「おもちをたべすぎないように」の「おもち」は正月らしく、「たべすぎないように」

にはちょっとした気づかいが込められ、ほのぼの感があり、正月に相応（ふさわ）しい名句であったのだ。

このフレーズを見て、子供心にも

「よーし、今年の正月はおもちをたべすぎないようにするぞ！！」
と思ったことはないが、何とも暖かみを感じられる一言であったのである。

普段、家ではお酒を飲まないが、今朝だけお猪口に一杯だけ飲んでしまった。元日はこういった年賀状を見たり、おせちを食べたり、家族団らんでゲームをしたり、とにかくゆったりと過ごす。

何の気なしに体重計に乗ってみた。

「あれ ？？」

この時初めて気がついた。

「おもちをたべすぎないように」のフレーズは大人がユーモア交じりに最初に書き始めたものなのではないのだろうか。それが他意のない子供達の間に残ったものではないか。子供が書きこするものではなく、本来大人が書きあうフレーズだったのかもしれない。

そんな平和なことをぼんやり考えながら時を過ごす。

ああ、だから元日って本当にいいものだ。

第2話 「チラシ」

今晩は特別することも考えることもなく、ゆっくりと新聞を読んでいた。新聞のなかにはいつもの様にチラシが折り込んである。普段見ることはないが、今日は特別な日、お正月なのである。さてさて今日は特別にゆっくりとチラシを見てみることにしよう。

ああ、あのお店がセールをするんだ。

最近ご無沙汰しているからちょっと寄ってみようかな・・・。

あのお店も売り出した。この商品、ほしいな・・・など、どのチラシ・宣伝もきれいできていて見ていてとても楽しい。

しかしこれらのチラシ（市内のお店）と一緒に結構な数の市外（全国区）からのチラシが折り込まれている。まあ、今日は暇だからそちらの方をじっくり見てみるとしよう。

1枚目を手にする。

大字で、「^や痩せる一杯」とある。

何だろう。

中国茶だ。その名も「中国宮廷減肥茶」。

宮廷という2文字が光っている。減肥は何と読むのだろう。

「げんぴ」だろうか。何とも面白い言葉だ。そもそもこれは中国語なのだろうか。

チラシの下に目をやる。

何人かの人の写真だ。

どこの誰だかわからないが、痩せる前と痩せた後の比較写真だ。

何と言おうか、それにしてもすごい写真だ。

痩せる前の写真、こ・これはすごい。太っているとの表現が当てはまらない。とにかく巨大の一言に尽きる。

この減肥茶を飲むと、この体が使用後の写真（痩せた後）になるのだ。

肩幅（骨）も急激に縮んでいる様にみえる。

左の写真では顔がまるい。まんまるだ。メガネのつるも悲鳴をあげている。しかし右の写真では同じメガネにもかかわらず細い顔にフィットしている。

メガネも痩せるほどの強烈な効果だ。

それにしても使用前の写真はどれを見てもどうしてピンボケなのだろう。

まるで横に伸ばした様な写真だ。

いやいや、そんなはずはない。うそはないはずだ。

なんてたって「中国宮廷減肥茶」、そう宮廷御用達なのだ（笑）

2枚目を手にとる。

何とこれまたすごいフレーズだ。

「破産大処分！！」

見ると宮城県の会社だ。

何とも強烈な表現だ。これは本当の話なのだろうか。

「不況のため破産を申し立てることになりました！」

こんなことを威張^{いば}ってどうするのだろう。

しかし、「・・・ことになりました」とは、破産後処分なのか、するつもり処分なのかは曖昧^{あいまいもこ}模糊としているが、とにかくすごいチラシだ。

正月早々、実にいいことを教えてもらった。

困ったことは威張ればいいのだ。

「私は今、二日酔いなんだ！」

こういうのはどうだろう。

「私は過食が過ぎたため、肥満になりました！」

学生諸君、君らも使えるぞ。

「ボクは勉強をさぼったため、大学5つを見事に滑りました！」

おおっ、君が一段と大きく見える。

3枚目を手にとる。

「全国各地で当選者続出！！ 歓喜コール大爆発！」

これまたものすごいボルテージだ。

これは何だ、何の宣伝だろう。

「ロト6 & ミニロト・ナンバーズ攻略法通信講座」と書いてある。

ギャンブルのことは皆目わからないが、何やら「くじ」の様なものらしい。

こんなものにも通信講座があるのか。

「やったー。3100万円ついに大勝利！！」

「ありがとうございます。おかげ様で21,042,400円」 ← やけに細かい

「以前お手紙した者です。今回も1000万円」、「ヤッター！！ピース！」

「うれしくて言葉になりません！」

などというハガキが印刷されている。

歓喜で我を忘れ喜んでいるいる割には、律儀にお礼のハガキを書いているところがやけに冷静だ（笑）

ロト6（シックス）で12回中8回の的大的中！！ 6241万円

ナンバーズ115回中50回的中！！ 4010万円

これが売り文句だ。

こんなに当たるのなら教材くらい安いものだ。全国で申し込みが殺到するだろう。

この広告に偽りは無いはずだ。なぜなら役所機関の広告審査機構も黙っている。

役所に怠慢は無いはずだからである。

第3話 「チラシ（2）」

4枚目を手にとる。

こ・これもすごい。

権威ある高収入資格「樹医」の優良通信講座だ。

木の医師がいるとは知っていたが、名前は樹医だったのか。

キーボードに「じゅい」と打てば「受遺」と出た。我がソフトも勉強不足の様だ。

ずっと文面を読んでみる。確かに素晴らしい内容でいい仕事だ。
木や花を育てるのだ。確かに生きる喜びと充実した毎日が送られるかもしれない。
しかし問題は「高収入」の真偽だ。

「副業で月収10万円、本業なら50万円は確実」とある。

何と最高は150万円だ。

「こんな資格は「樹医」以外にはありません！」とまで断言している。

テレビではリストラや失業率の増大を伝えている。

そうか皆、「樹医」を知らないのだ。テレビ局も「樹医」の威力を伝えた方がいい。

しかし、未だ失業した人が樹医とな^{いま}って充実した毎日を送っているニュースを聞いたことがないのはどういう訳だろう。

次は何だ。

えっ？ 純金インゴットウオッチ？

インゴットとは「固まり」の意味だから、これはすごい。

純金の固まりでできた時計だ！！

文字盤も金バンドもピッカピカの純金だ。全体が金一色に光輝いている。

さらにダイヤ5石も埋め込んでいるではないか。

いったい幾らなのだろう。見るのが怖い。

「特別価格 10,000円」

へっ！？

ちょ・ちょっと待ってほしい。ケタを間違えている様だ。ゼロが幾つも抜けている。

「世界に1つしかない究極限定モデル」と書いてある。それはそうだろう。

こんなにすごいモノはそうあるものではない。

「違いのわかる貴方に。」との言葉が憎い。しかし違っているのは金額のケタだ！！

と叫んだところでどうなるものでもない。

さてよ、次に書いてある言葉は何だ。

「純金インゴット使用」。

使用？ 使用とはどういう意味だろう。

「洗練されたドレスウオッチに名門クレディスイス銀行の純金インゴットをはめこんだ贅
沢な逸品」

見逃すところだった・・・・・・。「はめこんだ」という言葉をはめこんである。

つまりこういうことか、文字盤の中央部に薄っぺらいシートが貼ってあるが、このシートが金ということなのだろうか。

「純金999.9」

これにも惑わされた。テンナインという高純度を表す言葉があるが（小数点以下9が10個）、この999.9はミリグラムを意味していたのだ（つまり約1グラム）。

ワンナイン（小数点以下9が1個）という見慣れない数字に困惑してしまった。

それでは全体がゴールドに光り輝やいているのは？

・・・・・・そうか、そうだったのか。

「メッキ」り力が抜けた。

「特別価格 10,000円」

ケタは間違っていなかった。

新春のおめでたい、お買い得商品である。

第4話 「ちょっと一服、週刊誌」

週刊誌「サンデー毎日」をひさしぶりに読んでみた。

それにしても「サンデー毎日」のネーミングが滑稽だ。週刊誌なのに「毎日」というのがユーモラスだ。

逆から読むと「毎日サンデー」。

毎日が日曜日。ルンルン気分になりそうなネーミングだ。

まあ、そんなことはともかく、新春号はこんな見出しで始まった。

「今どき、元気で明るい話 / 告発！日本中央競馬会の悪行」

明るい悪行・・・・・・。

いったい何なんだ。

まあ、いい。週刊誌は手軽な情報誌だ。どんどん読み進めよう。

「大学一覧」

ああそうか、1月は受験シーズンなんだ。受験生の皆さんご苦労さん。喜ぶ人もいれば辛酸をなめる人もいる。しかし失敗しても自己を否定された訳ではなく、たかが受験と割り切った方がいい。大学なんてどこに入ろうが、どこでも一緒、大同小異だ。

極端なことを言うと、

「トップで出るかどうか、それだけである。入ったときと出るときで自分が右肩上がりに成長したかどうかである！」

と、親戚の子に言ったことがあるが、当然自分のことは棚に上げて言っているのである。

次にいこう。

金港堂本店、八重洲ブックセンター、芳林堂書店池袋店、福岡金文堂、ネットb k lでの本の売れ筋情報だ。

どれもこれも「ハリーポッターと賢者の石」が大人気だ。

芳林堂に至っては、2位も3位もハリーポッターシリーズだ。

珍しいところでは八重洲ブックセンターの3位に「佐藤一斎「重職心得箇条」を読む」が入っている。

小泉首相が真紀子大臣に贈った本だ。さすがは八重洲近辺の諸君。勉強してますね。

それにしても「ハリーポッター」がなぜこんなに読まれるのか。

ファンの方には申し訳ないが、この手のものが読書欄を独占する様じゃなかなかこの国の未来も明るくならない様な気がする。

魔法でも使えれば別ですが……。

はっと思ひ、我が奥方専用の本棚を見た。

あった。

「ハリーポッターと賢者の石」が。

おまけに「ハリーポッターとアズカバンの囚人」までも。

いつの間に……。

余計なことは言わずに、おとなしく「読ンデー毎週」の続きでも読もう。

★・∴・☆∴∴∴★・∴・☆∴∴・★∴∴・☆∴∴∴★∴∴・☆

(おわり)

これは2002年に社メルに投稿したコラム(No.88～90)を加筆したものです。